

別荘地でもひとときわ目を引く

ヴィラのような住まい

洗練された意匠と暖かさ。
個性と機能性を兼ね備えた
才色兼備な終の棲家

Tさんご夫妻が家建てるのはこれが2回目。東京で構えた1軒目のお宅は2階建てで、子育てを重視した造りでした。3人のお子さんが巣立ち、「これからは夫婦でゆっくり」と思う間もなく、直面したのは介護の問題。実家のある新潟と東京を往復する生活は、年齢を重ねた二人にとって大きな負担になったといえます。「明日は我が身」と思いつつも仕事や家庭をもつ子と私たちを呼びつけるのも忍びないと、長男の暮らす長野県への移住を決意。息子さん宅の隣地が偶然売りに出たことから、思いもかけずお隣に家を建てることとなりました。

終の棲家は先のことを考えて平屋を選択。その上で重視したことは『開放的な空間』と、寒さ厳しい冬でも快適に過ごせる『暖かさ』でした。

「大手のハウスメーカーはいくらでも要望を聞いてくれましたが、アイエスさんのように『これ以上窓を大きくすると部屋が暖まりませんよ』『山の中で雨どいを付けると枯れ葉が積もって大変ですよ』なんてことまでは教えてくれなかった。アイエスさんは断熱性能の高さに定評がありますし、現地の事情に精通しているので安心感が違いました」洗練されたデザインもまた「ありがたいな家は嫌」という夫妻の琴線に触れました。



A 眺望と採光、デザインに優れた大開口の窓が目を引く、ヴィラのような佇まい。基礎や天井にも十分な断熱材が施されているので熱を逃がさず、冷え込みが厳しい寒冷地でも快適に過ごすことができる。 **B** 傾斜のある庭はあえて均さず、高低差のある地形を生かした植栽を楽しんでいる。 **C** スタイリッシュなファサードが、ビルダーを決める最後のひと押しとなった。手前に見えているのがガレージの外壁で、ガラス張りのリビングを隠す役割も担っている。



D_明るく開放的なリビング空間からは息子さんのお宅と広々とした庭を望む。斜面に配された趣のある石積みは息子さんの力作。植栽との相性もよく、非日常の空間演出にひと役買っている。 **E_**オーダーメイドで仕立てたキッチンハウスのシステムキッチン。「油污れや臭い移りを気にしたくない」と、コンロと換気扇はカウンターではなく壁側に設置してもらった。キッチンと水周りの床には、セメントの素材感を生かした「ソリド」を使用。壁材として人気の素材だが、室内の床材としては珍しく、県内でもここだけとか。 **F_**リビングのソファで寛ぐご主人。庭で土いじりをしていないときは、特等席で野球観戦を楽しむのがお気に入りの過ごし方だそう。 **G_**30年間の海外生活で集めたお気に入りのコレクションがショーケースに並ぶ。

ながら奥様とおしゃべりをするのがご主人の至福のひと時。時折、隣で暮らす息子さん一家がお孫さんを連れてご飯を食べに来たり、仕事帰りに立ち寄った息子さんが奥様の手料理で一杯飲んでいたりすることもありません。

「現役時代はなかなか時間がとれなかったのですが、これからは家族でゆっくり過ごしたい」

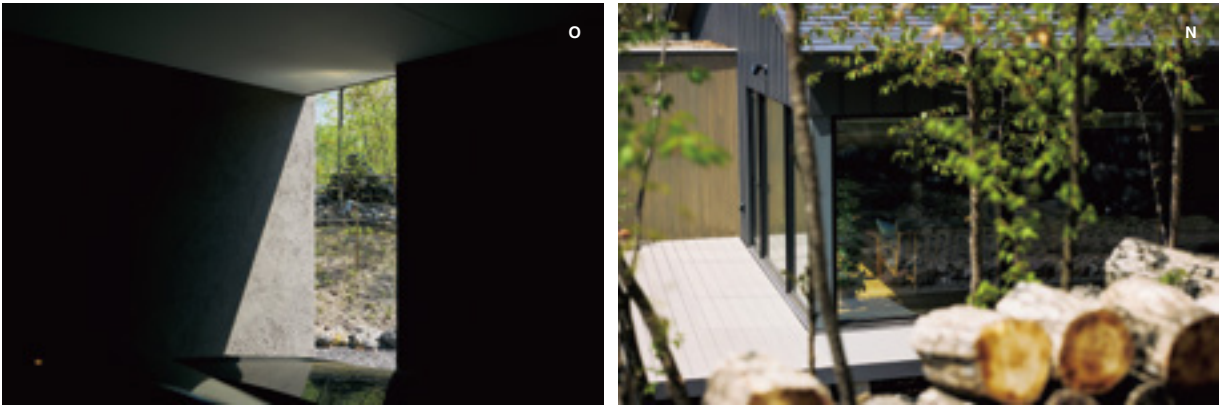
憩いの空間を手に入れたことで、団らんの夢が叶ったTさんご夫妻。家族の絆も一層強くなりました。

どこにいてもお互いの存在が感じられるよう、T邸は極力壁を設けない造りになっています。平屋とはいえ、奥行きがあり、天井も高い大空間。おまけにリビングには大きな窓が壁いっぱい配されていて、冬の寒さが心配になりますが、「床下エアコン1台で家じゅう暖まります」と笑顔の返答が。凍り付くような寒さの日でも、玄関のドアを開けた途端に室内の暖かさを実感できたといえます。どの部屋も温度が一定なので、東京の自宅よりもずっと快適で暖かいそう。

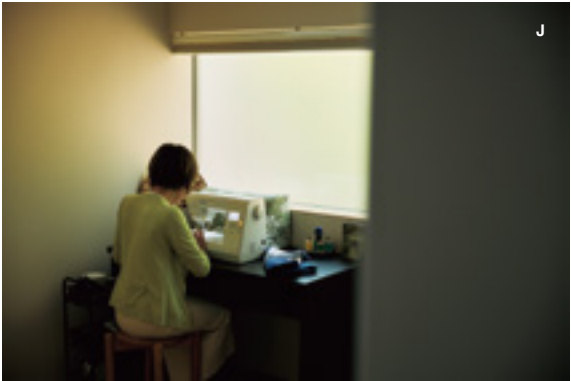
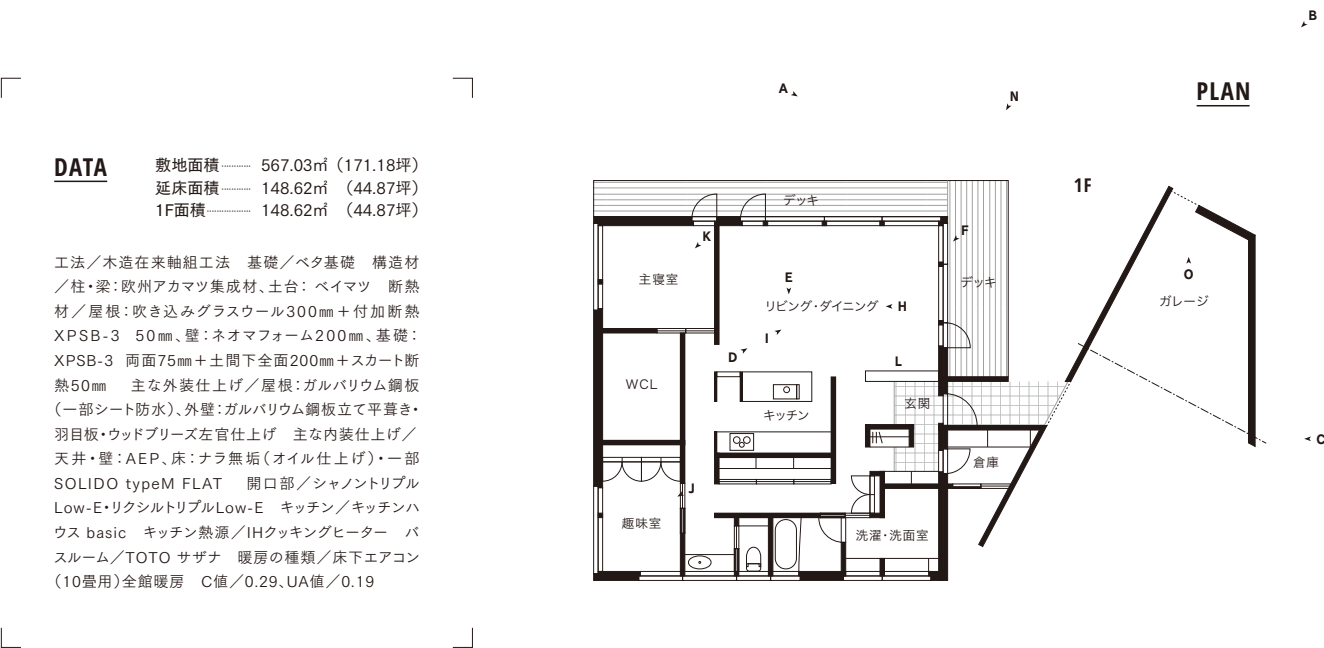
冬はマイナス10℃にもなる寒冷地だというのに、電気代は東京時代の半分というから驚きです。もちろん夏だって快適。昨夏は冷房をつけたのは2回だけで、あとは送風モードで過ごせました。

今は、ダイニングでお酒を飲み

お互いの存在と暖かさを
家じゅうどこにいても
感じられる幸せ



N_リビングダイニングの周りには、ウッドデッキをL字に巡らせてある。ガレージの外壁が目隠しになり、外部からは見えない造りになっているので、ここで洗濯物を干すこともあるそう。 **O**_広々としたガレージ。奥の開口部から覗く庭の景色もまた趣がある。



Comment

Owner: Tさんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にされたことは？

A 老後も快適に暮らせるフラットな空間と一定の室内温度です。特に、空間の広さは重視しました。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは？

A 収納を広くとったこと。壁と床の境目に巾木を設けないことで見た目をすっきりさせられたのもよかったです。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは？

A 「長野で一番」を謳うだけあって、本当に暖かい！ 機能性だけでなくデザインも素晴らしく、満足できました。

Builder: 担当／飯屋淳治さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは？

A 広さや開放感を追求しつつも遊び心を忘れない設計と、どこにいても暖かく快適に過ごせる高性能住宅。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 自然と調和した遊び心のある空間、年中省エネ・快適な住宅性能、隣の息子さん宅とのつながりを意識した設計。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは？

A 性能・デザイン・価格のすべてに妥協せず、ご家族にとっての最適解を追求し、一生満足できる家をつくること。

H_空間に余白をもたせた贅沢な造り。メンテナンスのしやすさを考え、内壁と天井はクロスではなく、水性で扱いやすいAEP塗装を選択した。 **I**_照明器具にもセンサーが光る。 **J**_ハワイアンキルトやパッチワークなどの手芸が得意な奥様。ミシンをかけるときは趣味室で、手縫いのときはリビングで手仕事に動しんでいる。 **K**_主寝室のドアはウォークイン・クローゼットのドアと兼用。右側にスライドさせると寝室の入り口が開いてクローゼットの入り口が閉じる。 **L**_壁の上部に隙間をつくることで、圧迫感を抑えている。 **M**_奥様のキルト作品が部屋を彩る。

